

令和3年度 年間授業計画

都立南平高等学校

学年 必・選	1 学年 必修	教科	数学	科目	数学A	単位 数	2
教科書	高等学校 数学A (数研出版)			使用教材	はぎとり式練習ドリル数学A サクシード数学 I + A (数研出版)		
授業 担当者名							

		指導内容	指導目標	予定 時数
一 学 期	中間 考 査	第1章 場合の数と確率 第1節 場合の数 1 集合の要素の個数 2 場合の数 3 順列	<ul style="list-style-type: none"> 集合の共通部分、和集合、補集合について理解をし、その要素の個数を求めることができる。 ベン図を利用することで集合の要素の個数を求めることができる。 順列や円順列。重複順列に帰着させて、場合の数を求めることができる 	1 2
	期末 考 査	第1節 場合の数 4 組合せ 第2節 確率 5 事象と確率 6 確率の基本性質 7 独立な試行と確率 8 条件付き確率	<ul style="list-style-type: none"> 組合せの公式を理解し、利用することができる。 試行の結果を集合と結びつけて、事柄の起こりやすさを数量的にとらえることができる。 確率の性質を理解し、和事象、余事象の確率の求め方がわかる。 複雑な独立試行の確率を、公式や確率の加法定理などを用いて求めることができる。 	1 3
二 学 期	中間 考 査	第2章 図形の性質 第1節 平面図形 1 三角形の辺の比 2 三角形の内心・外心・重心 3 チェバ・メネラウスの定理 4 円に内接する四角形 5 円と直線 6 2つの円	<ul style="list-style-type: none"> 三角形の外心、内心、重心の定義、性質を理解している。 チェバの定理、メネラウスの定理を、三角形に現れる線分比や図形の面積比を求める問題に活用できる。 円と直線を動的にとらえて、それらの位置関係を考察することができる。 	1 5
	期末 考 査	第2節 空間図形 8 直線と平面 第3章 整数の性質 第1節 約数と倍数 1 約数と倍数 2 最大公約数・最大公倍数 3 整数の割り算と商・余り	<ul style="list-style-type: none"> 空間における2直線の位置関係やなす角を理解している。 約数・倍数の意味を理解している。 ある整数aの倍数はakと表せることを使って、簡単な命題を証明することができる。 最大公約数と最小公倍数に成り立つ性質を利用して、2数の最大公約数と最小公倍数が既知のときにその2数を求めることができる。 	1 4
三 学 期	学 年 末 考 査	第2節 ユークリッドの互除法 4 ユークリッドの互除法 5 1次不定方程式 第3節 整数の性質の利用 6 分数と小数 7 n進法	<ul style="list-style-type: none"> 互除法の計算から最大公約数を表す式が導かれることを具体例から考察し、一般にも適用できることに気付く。 整数に関する問題を、1次不定方程式に帰着させることができ、問題を解くことができる。 分数が整数、有限小数、循環小数のいずれかで表される理由を、割り算の余りによって考察することができる。 位取り記数法、10進法、2進法、n進法について理解している。 	1 6
	計			7 0

評価の 観点・方法	年間5回行う考查の得点と・週末課題等の提出状況および授業態度等を総合的に判断して評価を行う。
--------------	--